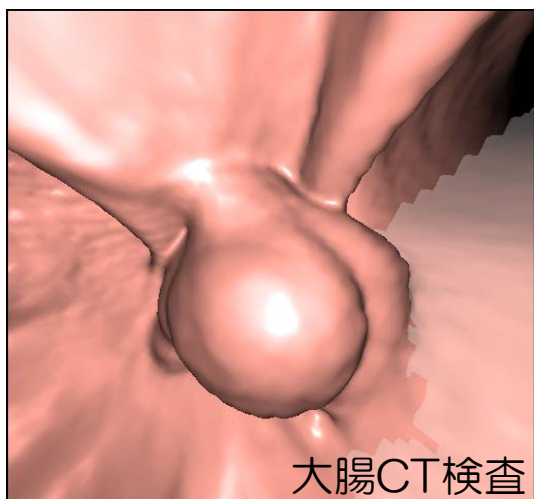


大腸CT検査のご案内

★ 増加傾向にある大腸がん

大腸がんは女性の部位別がん死亡率第1位、男性では第3位となっています。しかし、大腸がんは早期の段階では症状はほとんどありません。大腸がんは、他の主要ながんと比べて比較的治りやすいがんです。5年生存率では、早期ならば9割以上です。



大腸CT検査



大腸内視鏡検査

★ 大腸CT検査

内視鏡検査と比較して苦痛が少ないと言われ、短時間で検査することが可能です。当日は検査の部屋に入ってから出るまでに15分程度です。

内視鏡の挿入がなく、鎮静剤も不要なことから低侵襲で苦痛が少ない検査です。

腸管前処置が必要ですが、内視鏡検査のように多量の下剤を飲む必要はありません。（詳しくは次ページ参照）



CENTRAL HOSPITAL

★ 前処置～検査の流れ

前処置：検査前々日の眠前に軽い下剤、検査前日の朝食から検査食を食べて頂き、3食後ごとに少量の造影剤(大腸CT用経口造影剤)を飲んでいただきます。検査前日の夜に下剤を服用していただきます。
検査当日に下剤を飲む必要はありません。

検査：まず、鎮痙剤(ブスコパン)を筋注します。CTの寝台に横になり、肛門から直径約1cmのチューブを10cmほど入れ炭酸ガスを注入していきます。(炭酸ガス注入量1.5～3ℓ)
より正確な診断をするために、仰臥位と腹臥位の2体位で撮影をします。
入室から退室まで15分程度です。
大腸の炭酸ガスは空気の130～150倍体内への吸収が早いといわれており、10分程度でお腹は楽になります。

大腸CT検査ができない方

- * 妊娠中、または妊娠の可能性がある方
- * ペースメーカーを腹壁に装着されている方
- * 前処置ができない方
- * 腸閉塞が疑われる方
- * 腎機能が極めて悪い方
- * 硫酸バリウムなど薬剤過敏症の方
- * 10秒強の息止めができない方



CENTRAL HOSPITAL